

(仮称) 西脇多可新ごみ処理施設建設工事
公募型プロポーザル
審査講評

令和5年4月

西脇多可行政事務組合
一般廃棄物処理施設整備委員会

西脇多可行政事務組合（以下「組合」という。）では、（仮称）西脇多可新ごみ処理施設（以下「本施設」という。）の整備を行う（仮称）西脇多可新ごみ処理施設建設工事（以下「本工事」という。）を発注するに当たり、事業者の豊富な経験と高度な技術力を評価することのできる公募型プロポーザル方式（以下「プロポーザル」という。）を採用しました。

また、組合では西脇多可行政事務組合一般廃棄物処理施設整備委員会（以下「整備委員会」という。）を設置しており、本工事の発注を円滑に実施するため、令和3年8月以降、計10回の整備委員会を開催し、発注仕様書等について慎重に審議を重ねました。

プロポーザルについては、令和4年9月2日に公告し、令和5年3月16日に参加資格事業者から提出された非価格要素提案書に基づくプレゼンテーション及び技術提案関係図書に対するヒアリングを行い、令和5年4月7日に開催した整備委員会において、優先交渉権者の選定を行いました。

本講評は、整備委員会におけるこれまでの審議過程や審査結果について公表するものです。

令和5年4月28日

西脇多可行政事務組合

一般廃棄物処理施設整備委員会

委員長 西村 伸也

副委員長 大下 和徹

委員 藤原 良規

委員 佐藤 彰浩

委員 古川 雅一

委員 芦田 渉

委員 萩原 靖久

委員 藤原 照明

目 次

1	事業の概要	1
(1)	事業名称	1
(2)	事業場所	1
(3)	施設概要	1
(4)	工 期	1
(5)	事業方針	1
(6)	契約の形態	1
(7)	工事請負事業者の業務範囲	2
2	優先交渉権者選定までの経緯	2
(1)	委員会の設置	2
(2)	事業者の募集及び選定スケジュール	3
3	審査の手順及び方法	3
(1)	参加資格審査	3
(2)	技術審査	3
(3)	非価格要素審査	4
(4)	価格要素審査	8
(5)	総合評価点の決定	8
(6)	優先交渉権者の選定	9
4	審査講評	9

1 事業の概要

(1) 事業名称

(仮称) 西脇多可新ごみ処理施設建設工事

(2) 事業場所

兵庫県多可郡多可町中区奥中、徳畑地内

(3) 施設概要

ア 処理方式

ストーカ方式（連続運転式焼却炉）

イ 施設規模

(ア) エネルギー回収施設

52.6 t / 日（2系列、24時間連続稼働）

(イ) リサイクル施設

7.5 t / 日（1日の稼働時間は5時間）

○大型ごみ : 3.6 t / 日

○金属類 : 1.0 t / 日

○容器包装プラ : 2.6 t / 日

○ペットボトル : 0.3 t / 日

(4) 工期

組合議会の議決の日（本契約締結日）から令和8年3月31日まで

(5) 事業方針

公設公営により実施する。

なお、本施設の維持管理は長期包括運営委託を予定しており、竣工後3年間の維持管理は、本工事の請負事業者との随意契約を予定しています。それ以降の17年間については、新たに長期包括運営委託事業者を選定する予定としていますが、当該民間事業者の参画を妨げるものではありません。

(6) 契約の形態

組合は、本工事に当たり、民間事業者との間で「（仮称）西脇多可新ごみ処理施設建設工事請負契約」（以下「請負契約」という。）を締結します。

(7) 工事請負事業者の業務範囲

- ア 請負契約に基づく、施設設計・施工
- イ 土木工事、建築機械設備工事、建築電気設備工事、外構工事及びその他本施設の整備に必要な工事
- ウ 施工に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分、関係官公庁等との諸手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験等
- エ 本工事に係る交付金の申請等に必要な書類の作成
- オ 工事期間中の周辺住民等への対応や住民説明会（建設期間中の現場説明会を含む。）など各種会議等への出席及び当該会議等に使用する資料の作成
- カ その他、本工事の実施に関し、必要な事項

2 優先交渉権者選定までの経緯

(1) 委員会の設置

組合では、プロポーザル説明書、優先交渉権者選定基準書及び発注仕様書等の審議を行うため整備委員会を設置しており、整備委員会において優先交渉権者の選定を行いました。

整備委員会を構成する委員は、次のとおりです。

表一 1 整備委員会の構成

氏名	役職等
西村 伸也	大阪市立大学 名誉教授
大下 和徹	京都大学大学院工学研究科 准教授
藤原 良規	西脇市副市長
佐藤 彰浩	多可町副町長
古川 雅一	西脇市技監
芦田 渉	多可町技監
高田 洋明	西脇市くらし安心部長（～令和5年3月31日）
萩原 靖久	〃（令和5年4月1日～）
藤原 照明	多可町防災環境担当理事

(2) 事業者の募集及び選定スケジュール

事業者の募集及び選定スケジュールは次のとおり実施しました。

ア	募集公告及びプロポーザル説明書等の公表	令和4年9月2日(金)
イ	参加資格審査申請に関する質疑の受付期限	令和4年9月9日(金)
ウ	参加資格審査申請に対する質疑への回答日	令和4年9月16日(金)
エ	参加資格審査申請書等の受付期限	令和4年9月27日(火)
オ	参加資格審査申請以外の質疑の受付期限	令和4年9月30日(金)
カ	参加資格審査申請以外の質疑への回答日	令和4年10月17日(月)
キ	資格審査結果の通知日	令和4年10月17日(月)
ク	参加資格審査申請以外の質疑(2回目)の受付期限	令和4年11月21日(月)
ケ	参加資格審査申請以外の質疑(2回目)への回答日	令和4年12月2日(金)
コ	技術提案関係図書の受付期限	令和5年2月6日(月)
サ	技術提案関係図書のヒアリングの実施	令和5年3月16日(木)
シ	非価格要素評価及び価格要素の評価	令和5年3月23日(木)
ス	優先交渉権者の選定	令和5年4月7日(金)

3 審査の手順及び方法

(1) 参加資格審査

令和4年9月2日に募集公告及びプロポーザル説明書等の公表を行い、2者から参加資格申請書の提出がありました。

参加資格審査は、本プロポーザルの事務を担当する組合の資源循環課(以下「事務局」という。)で実施しました。

参加資格審査の結果は、次のとおりです。

なお、参加資格を確認した応募者に組合が企業番号を設定し、整備委員会で行う技術審査等は匿名で実施しました。

表一2 参加資格審査結果

企業番号	参加資格審査の結果
もも	合格
さくら	合格

(2) 技術審査

技術審査では、技術提案関係図書に記載された内容が発注仕様書に規定された要求水準を満足しているか審査を行いました。

併せて、提出を受けた図書について技術的検討を実施する過程で不明確な点、改善が必要と考えられる点を各参加資格事業者に

照会、確認を行いました。照会、確認を行った主な内容は次のとおりです。

- ◆設備機器の仕様及び材質について
- ◆耐火物の構成について
- ◆エネルギー回収率の妥当性について
- ◆リチウム電池火災に対する対応について
- ◆施設内の設備レイアウトについて
- ◆施設の車両動線について

審査の結果、企業番号「もも」及び企業番号「さくら」の2者がともに、発注仕様書に規定された要求水準を満足していることを確認しました。

このため、修正技術提案関係図書については提出を求めず、非価格要素審査を実施することとしました。

(3) 非価格要素審査

ア 非価格要素審査における評価項目

非価格要素提案について、表―3に示す「非価格要素審査における評価項目及び配点」に基づいて評価を行いました。

表一 3 非価格要素審査における評価項目及び配点

No.	評価項目	評価事項	審査の着眼点	配点	
1	安全・安心な施設	1.1 安定稼働	①ごみ量・ごみ質の変動への対応、排ガス量の低減等に寄与する処理システムに対する提案	35	5
			②施設・機器の余裕確保、トラブル・事故対策		
		1.2 安全・安心な施設計画	①作業動線の安全性及び利便性に対する考え方・計画		9
			②防災、地震、水害、災害廃棄物等へ配慮した計画		
			③作業員の労働安全性に配慮した提案・計画		
		1.3 運転管理基準（期待値）	○提案される運転管理基準値（期待値）		10
		1.4 運転・維持管理	①補修計画、維持管理計画の妥当性		3
			②引渡し時の運転指導及び調整等計画（業務・情報継ぎ方法）		
		1.5 企業評価	①過去の技術改善（改良）事例		4
			②建設工事実績		
		1.6 建設計画	①本事業工程（各種申請、工事工程等）の妥当性と信頼性		4
			②配置人員計画		
2	循環型社会の形成に寄与する施設	2.1 エネルギー利用計画	①施設内の余熱利用計画及び提案事項／熱利用率	25	10
			②自然エネルギー等の活用計画・提案		
		2.2 温水利用に対する計画	○施設外への温水供給に対する計画の妥当性・安定性及び量		10
		2.3 拠点施設	①地元住民に対する役割（提案）		5
②啓発施設に関する提案					
3	周辺環境に優しい施設	3.1 環境対策	○排ガス、騒音、振動、悪臭対策、粉じんの低減計画	10	5
		3.2 二酸化炭素低減対策	○CO ₂ 排出量の低減計画		5
4	住民から信頼される施設	4.1 施設のイメージ	①地域特性を理解し配慮した提案及び計画／イメージパース図等	20	7
			②見学者への配慮計画／地元住民の見学への対応		
		4.2 地域社会貢献	○地元の企業・人材・資材の活用方法及び地域経済への貢献方法		5
		4.3 施設の運転状況の透明性・情報公開	○建設時の環境モニタリングの方法及び運転時のデータの公開方法と運転管理基準値超過時の対応		4
4.4 建設時の配慮事項・品質管理	○建設時の環境配慮、採用する工法及び品質管理の方法／地元への説明方法	4			
5	経済性・効率性に配慮した施設	5.1 用役費の低減	○燃料、電気、油脂類、薬品類等の用役費の低減計画	10	3
		5.2 補修費等の低減	○補修費等の低減計画		3
		5.3 運転管理人員の削減	○運転管理人員の削減計画		4

イ 評価項目の採点基準

(7) 絶対評価基準

建設工事の実績を除く各評価項目は、表一４に示す「絶対評価基準」に基づいて評価、点数化を行いました。

表一４ 絶対評価基準

評価	評価内容	点数化の方法
A	提案効果に非常に大きな期待ができる。	配点×1.00
B	提案効果に大きな期待ができる。	配点×0.75
C	提案効果に期待ができる。	配点×0.50
D	提案効果にあまり期待ができない。	配点×0.25
E	提案効果にほとんど期待ができない。	配点×0.00

(1) 相対評価基準

建設工事の実績は、表一５に示す「相対評価基準」に基づいて評価、点数化を行いました。

表一５ 相対評価基準

応募者数	1位	2位	3位	4位	5位
2者	100%	40%			
3者	100%	70%	40%		
4者	100%	80%	60%	40%	
5者	100%	85%	70%	55%	40%

ウ 非価格要素審査結果及び非価格要素評価点の決定

非価格要素審査結果及び非価格要素評価点は、表一６「非価格要素審査結果及び非価格要素評価点」に示すとおりです。

非価格要素評価点は、各参加資格事業者の得点を非価格要素審査の満点（100点）で除し、60点を乗じた値としました。

なお、計算された点数については、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位までを非価格要素評価点としています。

$$\text{非価格要素評価点} = \frac{\text{参加資格事業者の得点}}{100\text{点}} \times 60\text{点}$$

表一 6 非価格要素審査結果及び非価格要素評価点

No.	評価項目	評価事項	審査の着眼点	配点	もも	さくら	
1	安全・安心な施設	1.1 安定稼働	①ごみ量・ごみ質の変動への対応、排ガス量の低減等に寄与する処理システムに対する提案	35	5	3.54	2.78
			②施設・機器の余裕確保、トラブル・事故対策				
		1.2 安全・安心な施設計画	①作業動線の安全性及び利便性に対する考え方・計画		9	5.96	4.92
			②防災、地震、水害、災害廃棄物等へ配慮した計画				
			③作業員の労働安全性に配慮した提案・計画				
		1.3 運転管理基準（期待値）	○提案される運転管理基準値（期待値）		10	7.14	6.07
		1.4 運転・維持管理	①補修計画、維持管理計画の妥当性		3	1.90	1.64
			②引渡し時の運転指導及び調整等計画（業務・情報引継ぎ方法）				
		1.5 企業評価	①過去の技術改善（改良）事例		4	3.36	2.09
			②建設工事実績				
		1.6 建設計画	①本事業工程（各種申請、工事工程等）の妥当性と信頼性		4	2.36	2.14
			②配置人員計画				
2	循環型社会の形成に寄与する施設	2.1 エネルギー利用計画	①施設内の余熱利用計画及び提案事項／熱利用率	25	10	6.28	5.00
			②自然エネルギー等の活用計画・提案				
		2.2 温水利用に対する計画	○施設外への温水供給に対する計画の妥当性・安定性及び量		10	6.79	5.00
2.3 拠点施設	①地元住民に対する役割（提案）	5	2.82	2.71			
	②啓発施設に関する提案						
3	周辺環境に優しい施設	3.1 環境対策	○排ガス、騒音、振動、悪臭対策、粉じんの低減計画	10	5	3.39	2.86
		3.2 二酸化炭素低減対策	○CO ₂ 排出量の低減計画		5	3.21	2.32
4	住民から信頼される施設	4.1 施設のイメージ	①地域特性を理解し配慮した提案及び計画／イメージパス図等	20	7	4.61	4.14
			②見学者への配慮計画／地元住民の見学への対応				
		4.2 地域社会貢献	○地元の企業・人材・資材の活用方法及び地域経済への貢献方法		5	3.39	3.21
		4.3 施設の運転状況の透明性・情報公開	○建設時の環境モニタリングの方法及び運転時のデータの公開方法と運転管理基準値超過時の対応		4	2.43	2.14
4.4 建設時の配慮事項・品質管理	○建設時の環境配慮、採用する工方法及び品質管理の方法／地元への説明方法	4	2.43	2.29			
5	経済性・効率性に配慮した施設	5.1 用役費の低減	○燃料、電気、油脂類、薬品類等の用役費の低減計画	10	3	2.25	1.82
		5.2 補修費等の低減	○補修費等の低減計画		3	1.61	1.71
		5.3 運転管理人員の削減	○運転管理人員の削減計画		4	2.29	2.14
合計点					65.76	54.98	
非価格要素評価点					39.46	32.99	

(4) 価格要素審査

ア 価格要素評価点の算出方法

価格要素評価点は、定量化限度額（予算額の80%）を参加資格事業者の提案価格で除し、40点を乗じた値としました。

なお、計算された点数については、小数点第3位を四捨五入して、小数点第2位までを価格要素評価点としています。

$$\text{価格要素評価点} = \text{定量化限度額} \div \text{提案価格} \times 40\text{点}$$

※定量化限度額：予算額の80%

イ 価格要素評価点の決定

価格要素評価点は、表－7「価格要素評価点」に示すとおりです。

表－7 価格要素評価点

予算額（税込）		8,700,000千円
定量化限度額（税込）		6,960,000千円
企業番号 もも	提案価格（税込）	8,679,000千円
	価格要素評価点	32.08点
企業番号 さくら	提案価格（税込）	12,386,000千円
	価格要素評価点	22.48点

(5) 総合評価点の決定

非価格要素評価点と価格要素評価点の合計点を総合評価点としました。

総合評価点は、表－8「総合評価点」に示すとおりです。

なお、表－9には、企業番号に対応する参加資格事業者の構成を示しています。

表－8 総合評価点

企業番号 もも	非価格要素評価点（60点）	39.46点
	価格要素評価点（40点）	32.08点
	総合評価点（100点）	71.54点
企業番号 さくら	非価格要素評価点（60点）	32.99点
	価格要素評価点（40点）	22.48点
	総合評価点（100点）	55.47点

表－9 企業番号に対応する参加資格事業者の構成

企業番号	参加資格事業者の構成	
	代表事業者	構成員
も も	エスエヌ環境テクノロジー株式会社	美樹工業株式会社 北播磨営業所
さくら	三機工業株式会社	村本建設株式会社 神戸営業所

(6) 優先交渉権者の選定

優先交渉権者選定基準に基づき、総合評価点の最も高い提案を行った企業番号「もも」を優先交渉権者として選定します。

4 審査講評

本工事における参加資格事業者は2者であり、非価格要素提案書において組合が求める次の5つの視点

- ① 安全・安心な施設
- ② 循環型社会の形成に寄与する施設
- ③ 周辺環境に優しい施設
- ④ 住民から信頼される施設
- ⑤ 経済性・効率性に配慮した施設

のいずれの項目においても、豊富な経験により組合が要求する水準を真摯に考慮した提案をいただきました。

そして、厳正かつ公正な審査の結果、企業番号「もも」が優先交渉権者に選定されました。

優先交渉権者となった企業番号「もも」においては、非常に高い技術力をもって組合が求める水準の確保に加え、困難とされる小規模施設における性能やエネルギーの回収など「限りある財源の中で、創意と工夫により、より良いものを適正な価格で建設できる提案」をいただきました。

さらに次の4つの提案

- ① 近年のリチウム電池等による火災防止に対する提案
- ② 円滑な受付精算処理のための「ナンバープレート自動読取装置」の提案
- ③ ごみピット3Dシステムによる焼却ごみ質の均質化
- ④ 公害防止基準値厳守のための手法の提案

など積極的な提案等をいただいております、今後は、建設工事請負契約に向け、詳細な協議を行うこととなります。

請負契約の締結後は、令和8年4月の供用開始を目指し、組合と協力して地域住民との信頼関係を築きながら、最善の努力を尽くしていただくことを望みます。

その中で、提案内容の更なる充実を図り、今回整備する本施設が、余熱の有効活用など循環型社会の形成に寄与し、地域の拠点として大きな役割を担うことにより、今後、全国で整備される小規模施設の先駆的な事例となることを期待するものであります。

最後になりましたが、募集公告から技術提案関係図書の提出まで5か月という非常に短い期間にもかかわらず、多大な労力をかけ設定したスケジュールを遵守し、貴重な技術提案をいただいた参加資格事業者に対し深く感謝申し上げます。

以上